

Kumamoto City

熊本市 I R 資料



目次

I. 熊本市のプロフィール	1	
■ 熊本市の概要	3	
■ 熊本市の特色	4	
■ 熊本市の産業	5	
■ 熊本市への主な評価	6	
II. 熊本市の市政運営	9	
■ 挑戦元年アクションプラン	11	
■ くまもとの再デザイン		
市役所の再デザイン	12	
交通体系の再デザイン	13	
中心市街地の再デザイン	14	
■ もっと暮らしやすさを実感できるまちの実現		
もっと暮らしやすさを実感できるまちの実現	15	
■ 選ばれる都市くまもとの実現		
観光地	16	
企業の立地・進出先	17	
国際戦略	18	
■ 行財政改革の取り組み	19	
III. 熊本市の財政状況	21	
■ 財政規模（平成25年度当初予算）	23	
■ 予算の状況（平成25年度一般会計当初予算 歳入）	24	
■ 予算の状況（平成25年度一般会計当初予算 歳出）	25	
■ 決算の状況（普通会計 歳入）	26	
■ 決算の状況（普通会計 歳出）	27	
■ 主な財政指標の状況（平成24年度決算）	28	
■ 健全化判断比率の状況	29	
■ 市債発行額・公債費の状況（普通会計）	30	
■ 市債残高・プライマリーバランスの状況（普通会計）	31	
■ 基金の状況	32	
■ 特別会計の状況（平成24年度決算）	33	
■ 公営企業会計の状況（平成24年度決算）	34	
■ 外郭団体の状況（平成24年度決算）	35	
■ 財政の中期見通し	36	
■ 平成25年度起債計画	37	

お問い合わせ先





KUMAMOTO WATER LIFE

熊本市のプロフィール



I. 熊本市のプロフィール

■ 熊本市の概要

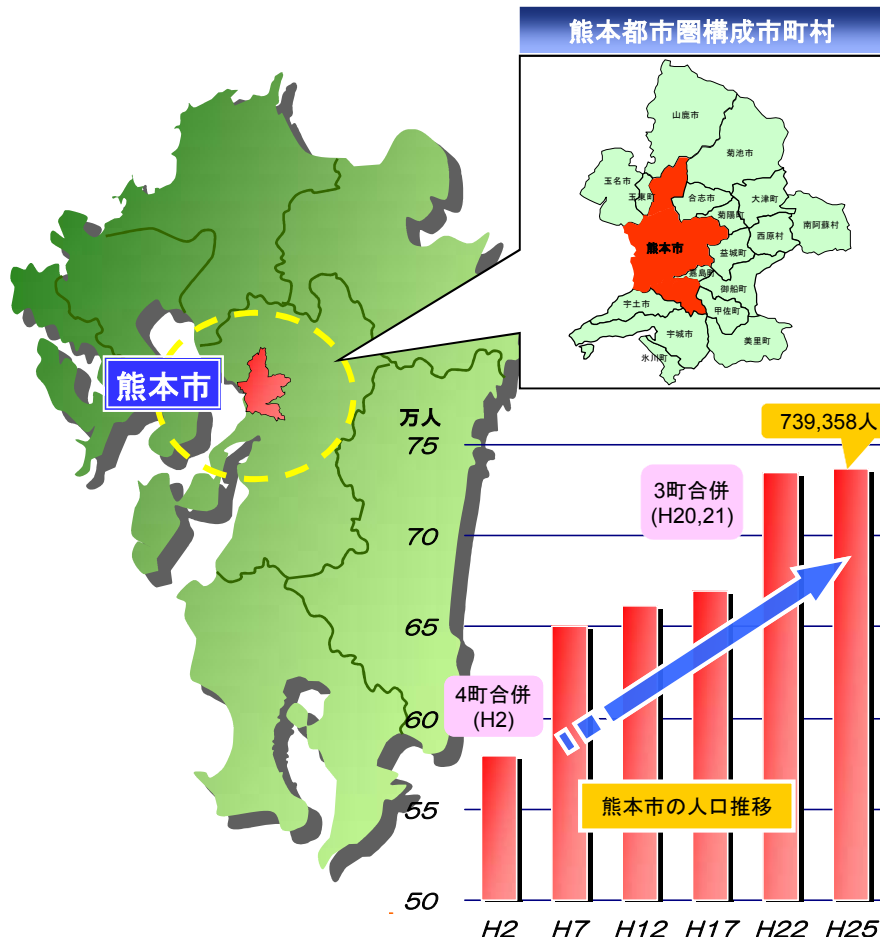
- ◆ 平成24年4月1日、全国で20番目、九州で3番目の指定都市へと移行
- ◆ 優れた都市環境と豊かな自然環境を併せ持つ魅力ある都市
- ◆ 熊本都市圏（熊本市への通勤通学が10%以上の周辺市町村で構成）人口は、約125万人

熊本市の基礎データ（H25.9.1）

- 人口 739,358人
※熊本都市圏人口 1,252,017人
(H22国勢調査)
- 面積 389.54平方キロメートル
- 人口密度 1,898人/km²
- 世帯数 312,547世帯

熊本市の沿革

明治22年4月	市制・町村制が施行され、熊本市が誕生
昭和47年10月	「森の都」を宣言し、森の都作戦を展開
昭和51年3月	「地下水保全都市」を宣言
昭和52年5月	人口が50万人を突破
平成元年4月	市制施行100周年
平成3年2月	飽託郡4町（北部、河内、飽田、天明）と合併 人口が60万人を突破
平成8年4月	中核市へ移行
平成19年1月	熊本城築城400年祭が始まる
平成20年10月	下益城郡富合町と合併 人口が67万9千人となる
平成21年4月	市制施行120周年
平成22年3月	下益城郡城南町、鹿本郡植木町と合併 人口が73万人となる
平成23年3月	九州新幹線全線開業
平成24年4月	指定都市へ移行



西日本最大級の全天候型アーケード(中央区)



希少動植物の宝庫であり、「水の都熊本市」を実感できる江津湖(東区)



子ども連れでも楽しめる、身近な自然が多く残る立田山(北区)



I. 熊本市のプロフィール

■ 熊本市の特色

- ◆ 九州の中央に位置する地理的優位性（九州各主要都市まで約150分圏内）
- ◆ 九州の行政の中心として発展し、国の出先機関の立地多数、大学・医療機関が高集積

熊本市内の国の出先機関等

- 九州総合通信局 ● 九州農政局
- 九州財務局 ● 九州森林管理局
- 九州地方環境事務所
- 陸上自衛隊西部方面総監部 等

持続可能な都市づくり

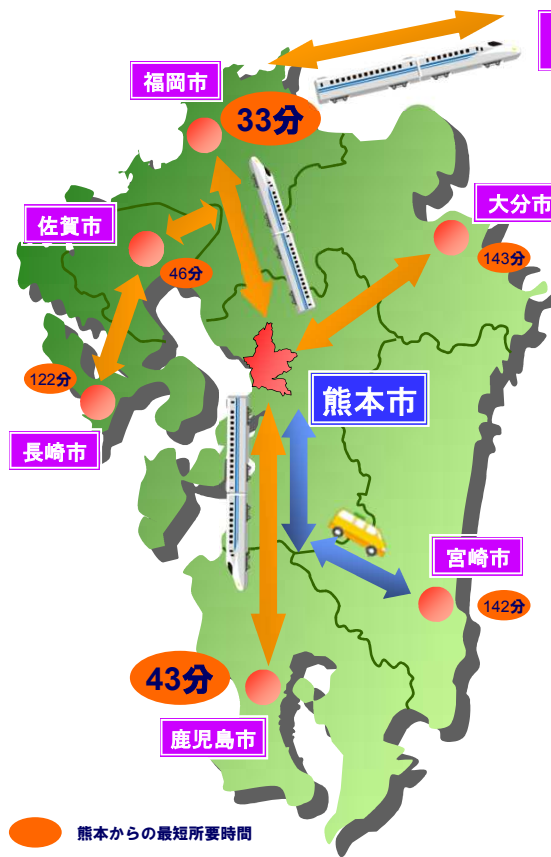
- 人口は自然増（出生数－死亡数）を続けており、出生率が高い
⇒ 子どもを生み育てやすい環境
- 近年は社会増（転入者数－転出者数）にも転換

- 合計特殊出生率 1.48
(指定都市20市中2位)

教育環境の充実

- 理工系の学部・学科が充実しており、IT・バイオ技術等、多分野において豊富な人材を輩出する学園都市(8大学、1短期大学、27高等学校、44専修学校等)

- 人口1万人当たり大学入学定員 82.3人
(指定都市20市中6位)



関西・中国方面へ

新大阪まで3時間

九州新幹線鹿児島ルート

- 平成23年3月に、九州新幹線鹿児島ルートが全線開業し、旅客流動は49万2000人増加（開業後1年で、54%増！！）
- 関西・広島・岡山・四国からの観光客が大幅に増加
- 出張等のビジネス移動時での移動手段としても定着

医療環境の充実

- 医療機関が高集積、医師数・救急隊数の充実
- 指定都市で唯一内科・外科・小児科の24時間診療体制を確立

- 人口10万人当たり医師数 400.7人
(指定都市20市中2位)



I. 熊本市のプロフィール

■ 熊本市の産業

- ◆ 清冽で豊富な地下水と大地が育む豊かな農業
- ◆ 熊本都市圏は、自動車関連企業や電気機器・半導体関連企業が数多く立地する一大集積地

豊かな農水産物

- 農業産出額は、指定都市20市中3位（全国8位）
- なす・すいかは、全国1位の産出額
- みかん・メロンの全国有数の産地
- 天然ハマグリの水揚げ量日本一



肥後ハマグリ弁当
日本一（ハマグリ）



熊本すいか
日本一（すいか）



なす
日本一（なす）

産業別就業者比率

- ・第1次産業 3.87%
（指定都市20市中2位）
- ・第2次産業 16.81%
（同17位）
- ・第3次産業 79.32%
（同5位）

※平成22年国勢調査確定値より

熊本都市圏の主な立地企業

- ①熊本市
- ▲南九州コカ・コーラボトリング
 - ▲熊本ヤクルト
 - ▲フジパンビ
 - ルネサスセミコンダクタ九州・山口
 - ★アイシン九州
 - ★アイシン九州キャスティング
 - ★平田機工
 - ★井関植木製作所
 - 化学及び血清療法研究所
 - トランスジェニック
 - リパテープ製薬
 - エコポート九州
 - アイディエス
 - ◎JTBグローバルアシスタンス
 - ◎ソフトバンクBB／BBコール
 - ◎TMJ
 - ◎トランス・コスモス
 - ◎日本トータルテレマーケティング
 - ◎ミスミ
 - ◎パド・プレスト

- ②宇土市
- 三和化学研究所
 - ◎日本合成化学工業
 - ◎大阪製鐵

- ③宇城市
- ▲山崎製パン
 - ★九州エフシーシー
 - 中央電子工業
 - 理化電子

- ④合志市
- 東京エレクトロン九州
 - 三菱電機
 - イーエルテクノ
 - ★合志技研工業
 - ◎日本たばこ産業

- ▲食品関連
 - 半導体関連
 - ★輸送用機械関連
 - 医療製品関連
 - 環境関連
 - ◎その他
- ※企業名は50音順

- ⑤菊陽町
- ソニーセミコンダクタ九州
 - 富士フィルム九州

- ⑥大津町
- テラダイン
 - 東京エレクトロン九州
 - HOYA
 - 三井ハイテック
 - ★富士精工
 - ★本田技研工業
 - ★本田技術研究所
 - ★中央可鍛
 - ホンダソルテック

- ⑦益城町
- ウエハーマスタース
 - ★井関熊本製造所
 - 再春館製薬所

- ⑧嘉島町
- ▲サントリー九州



I. 熊本市のプロフィール

■ 熊本市への主な評価

- ◆ 上水道水源100%を阿蘇西麓で育まれた地下水でまかなう日本一の地下水都市
- ◆ 平成25年3月、「世界水の日 国際式典」において、2013国連“生命の水（Water for Life）”最優秀賞を受賞。日本初であり、取組みについて世界的な評価を受ける。

日本一の地下水都市

- 熊本市民の水道水源は100%天然地下水（蛇口をひねれば天然ミネラルウォーター）
- 地下水の取水割合100.0%（人口50万人以上の都市では唯一）



熊本オフィシャルウォーター「熊本水物語」

地下水保全の取組み

- 周辺自治体との協働による水田を活用した地下水かん養の取組み
- 節水市民運動（1人1日あたりの生活用水使用量230ℓを目標）
- 県及び11市町村と連携し、（公財）くまもと地下水財団を設立



節水市民運動のパレード



地下水を育む水田

国連“生命の水（Water for Life）”表彰

- 国連事務局が、2005-2015を“生命の水（Water for life）”行動のための国際10年と設定
- 世界各都市で行われている優れた水管理の取り組みを推進するために、特に顕著な取組み事例を2011年から「世界水の日」（3月22日）に表彰
- 2013年は世界46都市から応募があり、本市はこのうち34都市がエントリーしたカテゴリー1「最良の水管理の取組み」の1位に輝く



< 受賞都市 >

2011年	ラスピニャス市 （フィリピン）
2012年	バンガロール市 （インド）
2013年	熊本市 （日本）



I. 熊本市のプロフィール

■ 熊本市への主な評価

- ◆ 平成24年11月、地域コミュニティと連携した健康増進に関する取組みが、リブコム賞「プロジェクト賞」において銀賞を受賞
- ◆ 平成23年11月、熊本城を中心としたまちづくりの取組みが、アジア都市景観賞大賞を受賞

リブコム賞

- リブコム賞 (The International Awards for Livable Communities) は、1997年に創設された環境面と暮らしやすさに焦点をあてた地方自治体を評価する世界的にも唯一の賞。UNEP (国連環境計画) とのパートナーシップ賞。
- 平成24年11月にアラブ首長国連邦 (UAE) で開催された最終審査会で、本市の「市民の健康増進に関する取組み」が「プロジェクト賞」において銀賞を受賞。また「住みやすい都市賞」において銅賞を受賞。

市民の健康増進に関する取組み

- 市民・関係機関・行政との協働による小学校単位の健康まちづくりの展開
- 住民主体の健康づくり事業の実施



親子で参加する健康に関する学習会

アジア都市景観賞

- アジア都市景観賞は、アジアの優れた都市景観の形成に寄与した都市や事業などを表彰する国際賞として、2010年に創設。アジア人間居住環境協会、国連ハビタット福岡本部、アジア景観デザイン学会、財団法人福岡アジア都市研究所が主催
- 2011年に申請した「熊本城復元整備とまちづくり」について、大賞を受賞

熊本城復元整備とまちづくり

- 熊本城復元整備の推進や復元整備への特典付寄付（「一口城主」）制度の展開
- 熊本城を生かした街の賑わいの創出
- 熊本城を望む眺望に配慮した景観保全



熊本市の中心部に位置する熊本城



熊本市の市政運営



走れ、挑め。天下の名城へ。

熊本城マラソン2014

KUMAMOTO CASTLE
MARATHON
2014.2.16[SUN]



Ⅱ. 熊本市の市政運営

■ 挑戦元年アクションプラン

- ◆ 「市役所・交通体系・中心市街地の再デザイン」、「もっと暮らしやすさを実感できるまち」、「選ばれる都市くまもと」を柱とした130項目の迅速かつ着実な公約実現に向け、平成23年2月策定

挑戦元年アクションプラン

I. くまもとの再デザインに取り組みます

1. 市役所の再デザイン

2. 交通体系の再デザイン

3. 中心市街地の再デザイン

Ⅱ. もっと暮らしやすさを実感できるまちを実現します

Ⅲ. 選ばれる都市くまもとを実現します

Ⅱ. 熊本市の市政運営

■ くまもとの再デザイン(市役所の再デザイン)

- ◆ 指定都市移行を機に、全国さらには東アジアに向け、熊本の都市ブランドを強く情報発信
- ◆ これまでの行財政改革の取り組みを引き続き進めるとともに、経営感覚に富んだ行財政運営への取り組み

① 政令指定都市くまもとの実現

- 都市ブランドの情報発信
- 地域主権における大都市制度の確立

② 区役所を最大限に活用

- 区ごとのまちづくりビジョン策定

③ 意思決定等をスピードアップ

- 組織のフラット化

④ 都市戦略力の向上

- 上海事務所の設置
- 東京事務所の強化

⑤ さらなる行財政改革

- 総人件費の抑制
- 事務事業外部評価会議の実施
- IR・市場公募債の発行・公債管理の徹底

事務事業外部評価会議



⑥ 情報共有・市民参画の推進

- 2,000人市民委員会の設置
- 公的オンブズマンの設置



2000人市民委員会
(委員となった市民の皆様から市政の様々な重要政策課題についてご意見・ご提言をいただく)

⑦ 信頼される市役所の実現

- コンプライアンス担当監の設置
- 大学等と連携した職員の資質向上(シンクタンク設置)

Ⅱ. 熊本市の市政運営

■ くまもとの再デザイン(交通体系の再デザイン)

- ◆ 参画と協働で築く公共交通を基軸とした多核連携のまちづくりを目指し、平成24年に、「熊本市公共交通グランドデザイン」策定
- ◆ 平成27～28年度に北熊本スマートIC、城南スマートICの供用開始予定、高速交通体系へのアクセス充実

① 誰もが利用できる公共交通網の整備

- 鉄軌道を軸とした公共交通体系の整備
- 区バス等の運行・バス網の再編
- ICカードの導入
- バリアフリー化等による市電の利便性向上
- 熊本・川尻駅間新駅の実現

② 高速交通体系へのアクセスの充実

- 熊本駅の乗り換え利便性の向上
- 植木・北バイパス、熊本西環状道路の整備
- スマートインターチェンジの設置
- 高速道路利用料金軽減策の検討

③ 環境負荷の小さい交通体系の実現

- 市電の利用促進
- 公用車のカーシェアリングの導入

基幹公共交通の強化 (鉄道・市電・幹線バス)

- 中心市街地と15の地域拠点を結ぶ8軸(基幹公共交通軸)の輸送力、速達性、定時性強化

超低床電車



公共交通空白・不便地域への対応

- 地域と協働で「コミュニティ交通」導入



乗合タクシー

日常生活を支えるバス路線網の再編

- 基幹公共交通を補うバス路線網を再編
- わかりやすく効率的な運行体制を確立



バス専用レーン(国道3号)



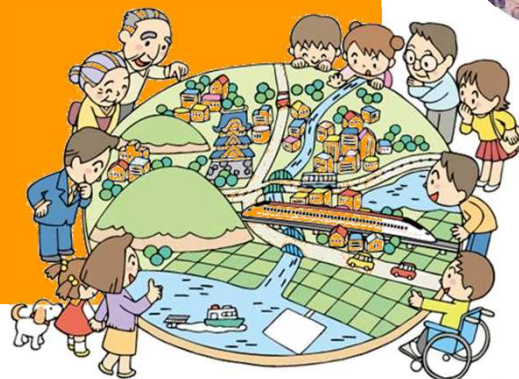
Ⅱ. 熊本市の市政運営

■ もっと暮らしやすさを実感できるまちの実現

◆ 安心安全で子育てしやすく、活力に満ちた働く場があふれる、「もっと暮らしやすさを実感できるまち」の実現

もっと暮らしやすさを実感できるまちの実現

- ① 安全安心なまちの実現
- ② 子育てしやすいまちづくり
- ③ 子どもの成長を見守るまちづくり
- ④ 高齢者が安心して暮らせるまちづくり
- ⑤ 障がいのある方が生きがいを持てる生活環境づくり
- ⑥ 誰もが健康で暮らせるまちづくり
- ⑦ 人材を育てる教育環境の実現
- ⑧ 市民協働のまちづくり
- ⑨ 持続的に発展する農水産業の振興
- ⑩ 働く場があふれるまちづくり
- ⑪ 低炭素都市づくり
- ⑫ 身近にスポーツを楽しめるまちづくり
- ⑬ 文化力の高いまちづくり



Ⅱ. 熊本市の市政運営

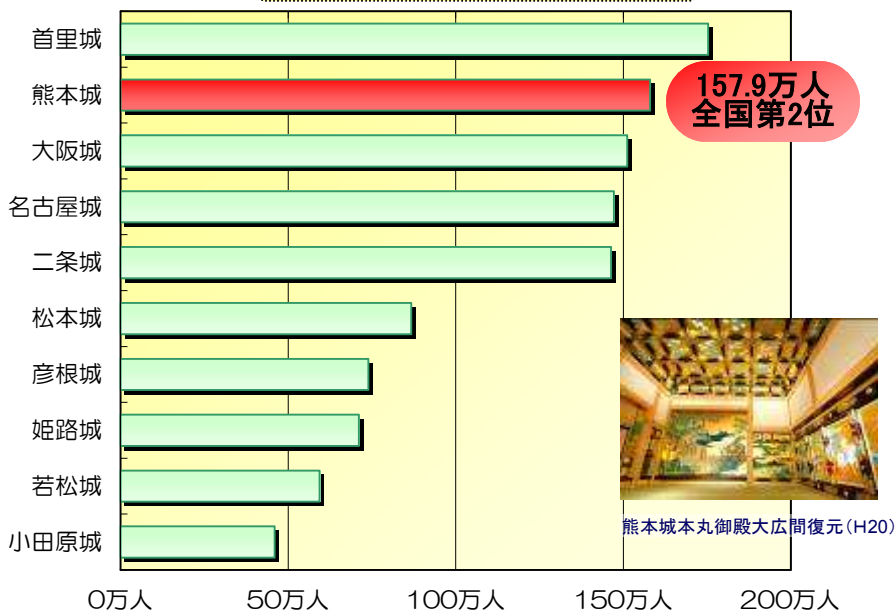
■ 選ばれる都市くまもとの実現(観光地)

- ◆ 日本三名城のひとつに数えられる「熊本城」は、本市の観光の中核施設として、これまで「本丸御殿」「桜の馬場 城彩苑」などを整備
- ◆ 熊本城の入場者数は、全国の城郭入場者数で2年連続全国第2位を記録

本市最大の観光地、熊本城の魅力向上

- 熊本城の入園者数は10年前と比較して、大幅に増加
- 熊本城のエントランスにあたる地区に、「桜の馬場 城彩苑」を整備
- 周辺地域への回遊性促進、中心市街地の活性化並びに本市も魅力向上

全国城郭入場者数(平成24年度)



観光資源の情報発信・プロモーション

- 熊本は、風情のある町並み、豊かな食の恵み、温泉等の観光資源が豊富
- 各種媒体を利用した情報発信や、各都市でのプロモーション等を行い、観光資源を活用



桜の馬場 城彩苑



おもてなし武将隊



熊本の特産品(太平燕(タイピーエン)、熊本ラーメン、馬刺し、からし蓮根)



滑らかな泉質が特徴の「植木温泉」

Ⅱ. 熊本市の市政運営

■ 選ばれる都市くまもとの実現(企業の立地・進出先)

- ◆ 指定都市移行後、企業立地件数が過去最多(平成24年度:16件)
- ◆ 指定都市トップレベルの充実した企業立地補助金(平成24年度より、補助金限度額を 20億円⇒30億円に拡充)

充実した企業立地補助制度

- 工場・コールセンター・データセンター等の立地に対し、最大30億円を補助
- 市中心部への支社・支店、営業所等のオフィス立地に対し、最大1千万円を補助



ビジネス支援センター
(くまもと森都心プラザ内)



くまもと大学連携インキュベータ

～熊本港の利用促進～

- ガントリークレーン供用開始 (H24. 11～)
⇒ 貨物取扱量 43%増
(H25. 1～8月 前年同期比)
- 熊本港～釜山港
定期貨物便 週2便へ増便 (H24. 12～)



ガントリークレーン



企業から選ばれる都市

- 熊本市には、企業立地で重要となる優れた資源が豊富
 - ① 優れたビジネス環境
 - ・ 企業の一大集積地
 - ・ 少ない自然災害リスク
 - ・ 高いコストパフォーマンス
 - ② 優れた人材・生活環境
 - ・ 数多くの工科系人材・教育機関
 - ・ 豊富な地下水・農水産物
 - ・ 自然環境と調和したまち
 - ③ 充実した企業立地支援体制
 - ・ 企業立地推進体制の強化
 - ・ 工業団地の整備
 - ・ 充実した企業立地補助制度
 - ・ 立地企業のフォローアップ



今藤工業団地

Ⅱ. 熊本市の市政運営

■ 選ばれる都市くまもとの実現(国際戦略)

- ◆ 観光客・留学生の誘致に向けたプロモーション等、本市の魅力発信を強化・充実
- ◆ 上海・香港・桂林・台北・釜山・ソウル・蔚山市等をターゲットとした東アジア戦略を展開
- ◆ アジア初、世界で1,000番目のフェアトレード・シティ認定

東アジアでの展開

● 台湾・高雄市との経済交流

・H25.9 熊本県と連携して、経済交流の覚書を締結

● 上海事務所開設

・H24.1 熊本県・熊本大学と共同開設
・観光客誘致、ビジネス支援、留学生誘致

● シンガポールOishi JAPANへの出展

・平成23年度から継続して実施
・地元企業の海外進出や販路開拓・拡大、観光客の誘致

● 韓国蔚山広域市と友好協力都市を締結

・H22.4 友好協力都市協定の締結

● 香港国際食品見本市(FOOD EXPO)への出展

・平成19年度から継続して実施
・地元企業の海外進出や販路開拓・拡大、観光客の誘致



友好関係にある世界の都市

桂林市	中華人民共和国
サンアントニオ市	アメリカ合衆国
ハイデルベルク市	ドイツ連邦共和国
ローム市	アメリカ合衆国
蔚山広域市	大韓民国
エクサンプロヴァンス市	フランス共和国
蘇州国家 高新区	中華人民共和国

アジア初のフェアトレード・シティ認定

・官民協力してフェアトレード製品の推進を行っている都市として認定機関からアジア初、世界で1,000番目の都市として平成23年6月4日に認定されたもの。

フェアトレードとは？

・発展途上の国・地域で作られたモノを長期的に、適正価格で購入することで、その国や地域の生活と生産が持続可能になることを目指す、貿易・ビジネス・消費運動や国際協力のこと



台湾・高雄市との経済交流

見本市での市長PR

上海事務所の開設



Ⅱ. 熊本市の市政運営

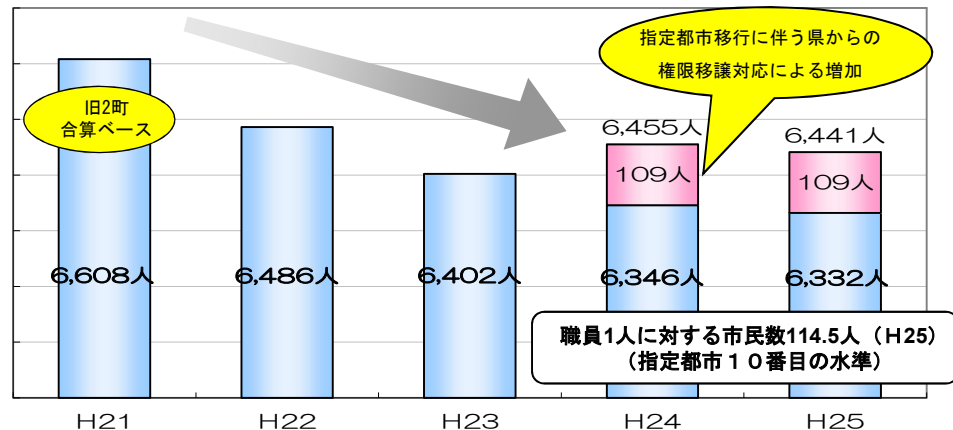
■ 行財政改革の取組み

- ◆ 第1次から第3次の行財政改革の取組みにより、400億円を超える財政効果を実現
- ◆ 現在、第4次行財政改革計画（平成21～25年度）を強力に推進

これまでの行財政改革の取組み（平成8年度～）

		第1次 行財政改革大綱	第2次 行財政改革大綱	第3次 行財政改革推進計画
実施期間		平成8～11年度	平成12～15年度	平成16～20年度
職員数	目標	職員1人あたり 市民100人	6,500人	6,124人
	成果	職員1人あたり 市民101.2人	6,364人	6,119人
効果額	目標	50億円	30億円	275億円
	成果	49億円	53億円	332億円

<職員数の推移>



※県からの権限移譲に伴う人員増の影響（109人）を除くと毎年、確実に減少傾向に

第4次行財政改革計画（平成21～25年度）

【主な取組み】

● 市民に信頼される市政の実現

- ・ 市民参画と協働の推進
自治基本条例の制定（H21）
- ・ 市民の視点に立ったサービスの提供
民間提案によるサービスの見直し（H24～）

● 効率的で質の高い市政運営

- ・ 人件費の抑制
職員定員、給与制度の適正化（H21～）
- ・ 民間活力の活用
文化ホール等施設の指定管理者制度の導入（H21～H24：12施設）
ごみ収集・土木センター・学校給食業務等の民間委託（H21～）
PFI方式等の活用（H22 桜の馬場 城彩苑）
- ・ 受益者負担の見直し
市営駐輪場、動植物園駐車場の有料化（H24）
- ・ 税収等の確保
市税収納率の向上（H21 91.1% ⇒ H24 92.8%）



Ⅱ. 熊本市の市政運営

■ 行財政改革の取組み

民営化・民間委託の実施

- 市営バス全路線を、民間事業者へ段階的に移譲（～平成27年度）

移譲の受け皿として、民間バス3社の共同出資による「熊本都市バス株式会社」を設立



熊本都市バス車両

- 3市立保育所の民営化
- 約400施設の管理を民間事業者（指定管理者）に委託
・平成25年4月、新たに「斎場」に指定管理者制度を導入
- ごみ収集、学校給食業務の民間委託
- 民間提案による市民サービスの見直し

モデル事業として「市税の初期滞納対策事業」の業務委託を実施し、民間提案の募集や官民比較手法などの検証を行う

事務事業外部評価会議の実施

- 平成23年8月から事務事業外部評価会議を実施

本市の事務事業の運営の効率性等について公開の場で市民参加による議論を行い、透明性・信頼性の高い市政運営を図る

組織改編・フラット化

- 平成23年4月、「観光文化交流局」、「農水商工局」を創設
・観光振興・農商工連携等の重点施策を強力に推進



都市戦略力の向上

- 平成24年4月、「部」を廃止し、組織をフラット化
・「局→部→課」の3層構造から「局→課」の2層構造に



意思決定や政策実行をスピードアップ

- 平成24年10月、自治体シンクタンク
「熊本市都市政策研究所」を開設

受益者負担の見直し

- 平成24年6月、中心市街地の市営駐輪場有料化

民営事業者の参入促進
（駐輪場整備費の助成財源を確保）



市営上通自転車駐車場



新たに11か所、約3,000台分の民営駐輪場を整備

- 平成24年4月、動植物園の駐車場有料化
・駐車場維持管理経費の利用者負担、公共交通機関の利用促進

熊本市の財政状況



Ⅲ. 熊本市の財政状況

■ 財政規模（平成25年度当初予算）

- ◆ 全会計合計 5,638億円（対前年比1.4%、77億円の増）
- ◆ 一般会計当初予算は2,854億円（対前年比3.5%、95億円の増）

平成25年度当初予算の状況

一般会計 2,854億円

特別会計 1,966億円

（国民健康保険事業会計、介護保険事業会計等 全16会計）

企業会計 818億円

（水道事業会計、病院事業会計、交通事業会計等 全5会計）

合 計 5,638億円

（単位：億円）

	平成25年度	平成24年度	前年比較	
			増 減	伸 率
一般会計	2,854	2,759	95	3.5
特別会計	1,966	1,982	▲ 16	▲ 0.9
企業会計	818	820	▲ 2	▲ 0.3
合 計	5,638	5,561	77	1.4

財政規模の指定都市比較（平成25年度一般会計当初予算）

（単位：億円）

1	大阪市	16,700
2	横浜市	15,369
3	名古屋市	10,259
4	札幌市	8,524
5	福岡市	7,596
6	京都市	7,366
7	神戸市	7,101
8	川崎市	5,984
9	広島市	5,697
10	仙台市	5,461
11	北九州市	5,400
12	さいたま市	4,475
13	千葉市	3,595
14	堺市	3,587
15	新潟市	3,584
16	熊本市	2,854
17	浜松市	2,703
18	岡山市	2,701
19	静岡市	2,664
20	相模原市	2,445

指定都市中
16番目の財政規模

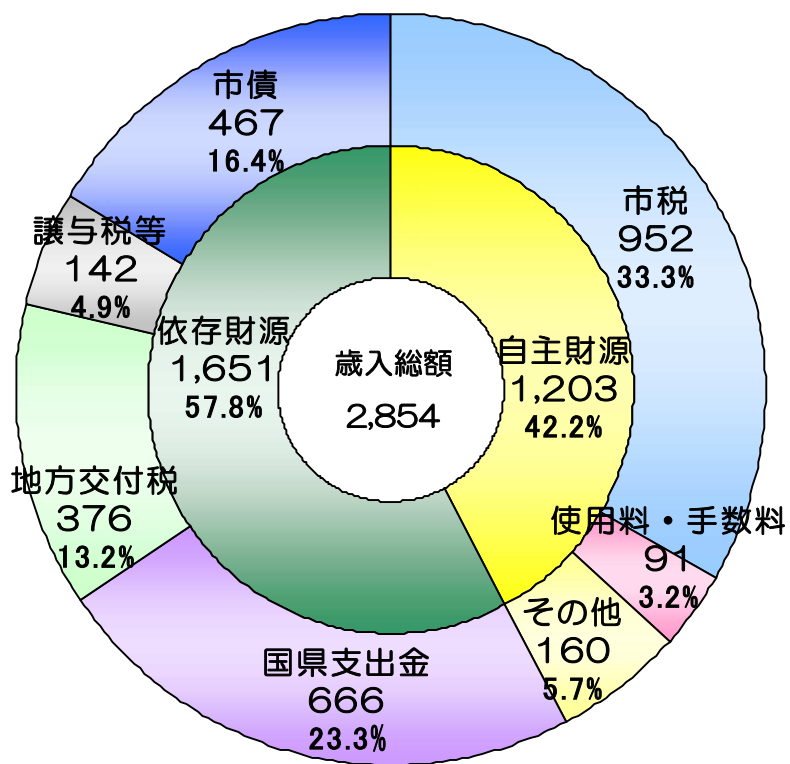


Ⅲ. 熊本市の財政状況

■ 予算の状況(平成25年度一般会計当初予算 歳入)

一般会計当初予算(歳入)

(単位：億円)



(単位：億円、%)

		平成25年度		平成24年度		前年比較	
			構成比		構成比	増 減	伸 率
	市税	952	33.3	934	33.8	18	1.9
	使用料・手数料	91	3.2	89	3.2	2	2.3
	その他	160	5.7	119	4.4	41	34.4
自主財源		1,203	42.2	1,142	41.4	61	5.4
	国県支出金	666	23.3	643	23.3	23	3.5
	地方交付税	376	13.2	408	14.8	▲ 32	▲ 7.8
	譲与税等	142	4.9	142	5.1	0	0.0
	市債	467	16.4	424	15.4	43	10.2
依存財源		1,651	57.8	1,617	58.6	34	2.1
合 計		2,854	-	2,759	-	95	3.5%

- 市税は、税制改正や特別徴収の推進を踏まえ、前年度比+1.9%、18億円の増
- 自主財源と依存財源の割合は、4：6で依存財源が高い

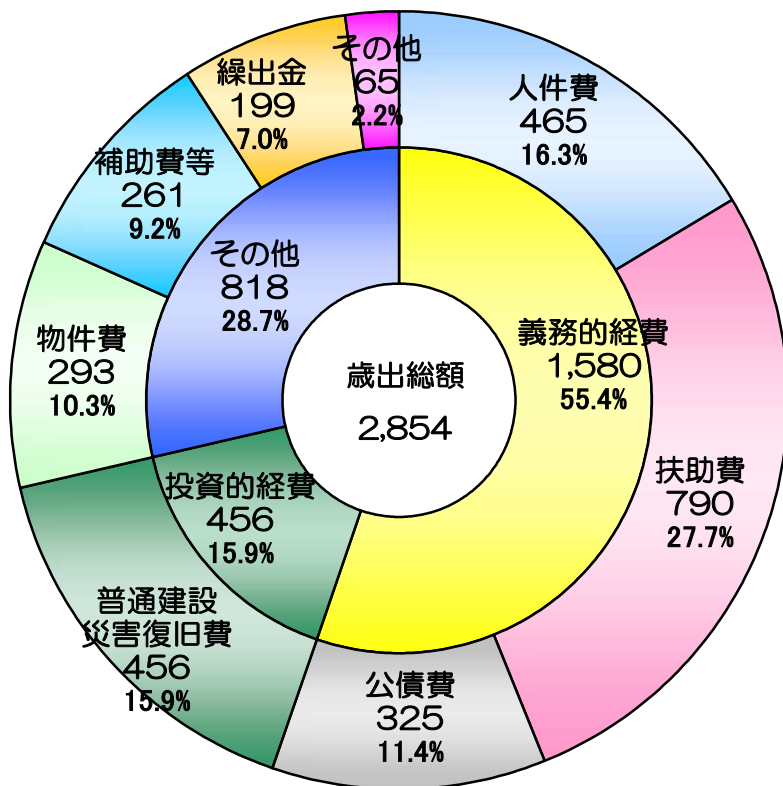


Ⅲ. 熊本市の財政状況

■ 予算の状況(平成25年度一般会計当初予算 歳出)

一般会計当初予算(歳出)

(単位：億円)



(単位：億円、%)

	平成25年度		平成24年度		前年比較	
		構成比		構成比	増 減	伸 率
人件費	465	16.3	464	16.8	1	0.1
扶助費	790	27.7	771	27.9	19	2.5
公債費	325	11.4	330	12.0	▲ 5	▲ 1.5
義務的経費	1,580	55.4	1,565	56.7	15	1.0
投資的経費	456	15.9	400	14.5	56	14.0
その他	818	28.7	794	28.8	24	3.1
合 計	2,854	-	2,759	-	95	3.5

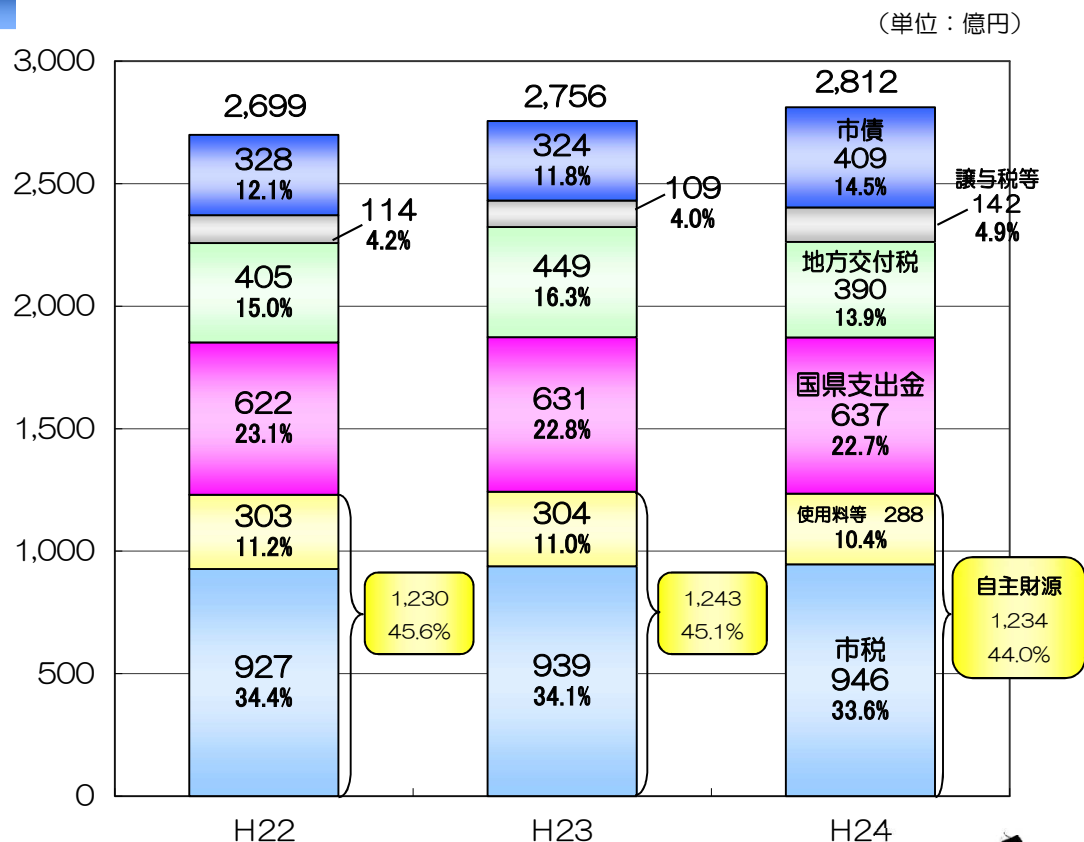
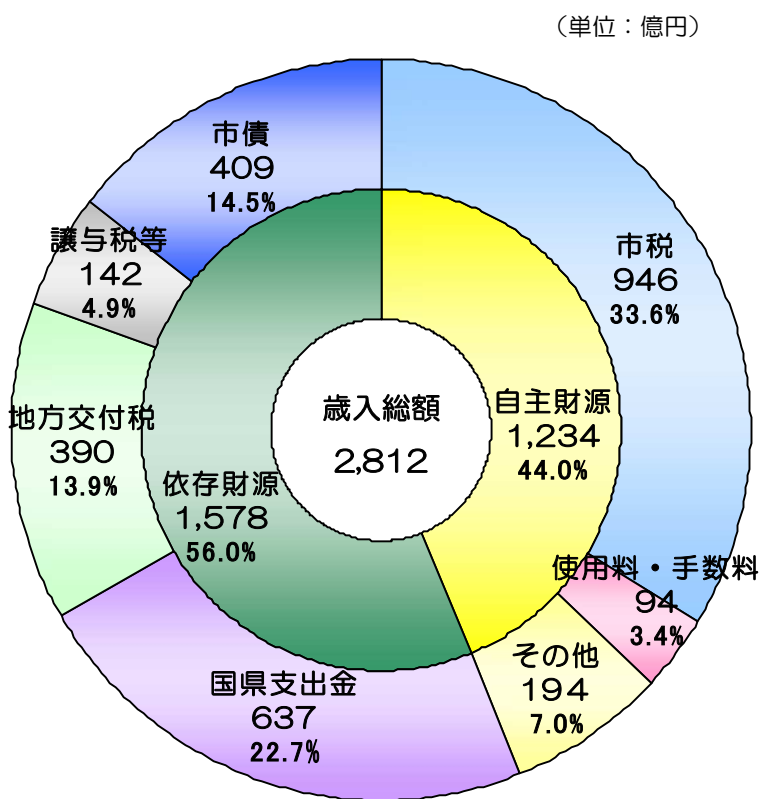
- 扶助費は、790億円(対前年比+2.5%、19億円の増)
義務的経費が約6割を占める歳出構造
- 投資的経費は、456億円(対前年比+14.0%、56億円増)
国・県道整備(127億円)、合併3町基盤整備(41億円)等を計上

Ⅲ. 熊本市の財政状況

■ 決算の状況(普通会計 歳入)

- ◆ 平成24年度歳入決算総額は2,812億円で、前年度比2.0%、56億円の増
- ◆ 市税の決算は946億円で、前年度比0.8%、7億円の増、全体に占める割合は33.6%

平成24年度 普通会計決算(歳入)



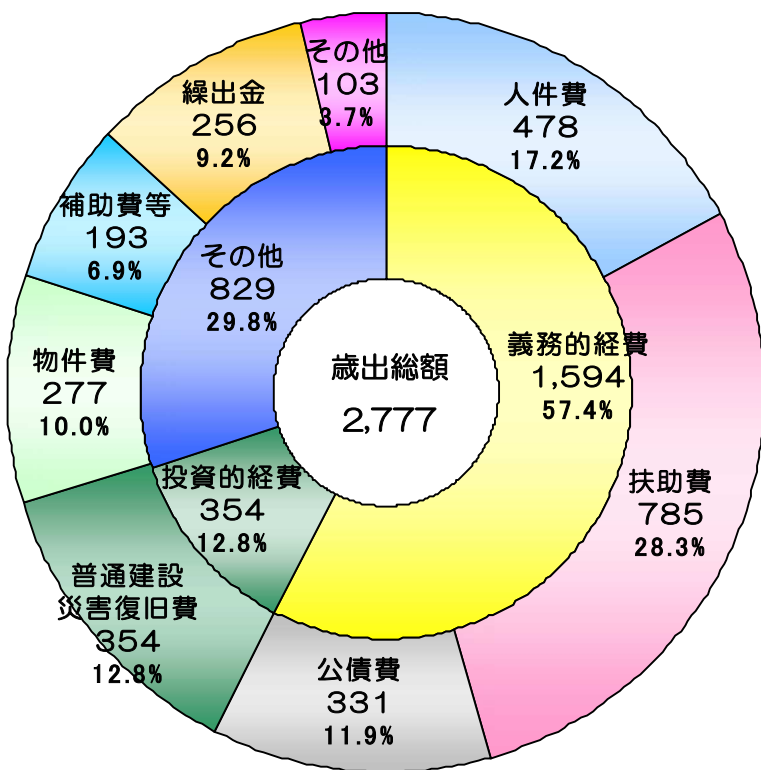
Ⅲ. 熊本市の財政状況

■ 決算の状況(普通会計 歳出)

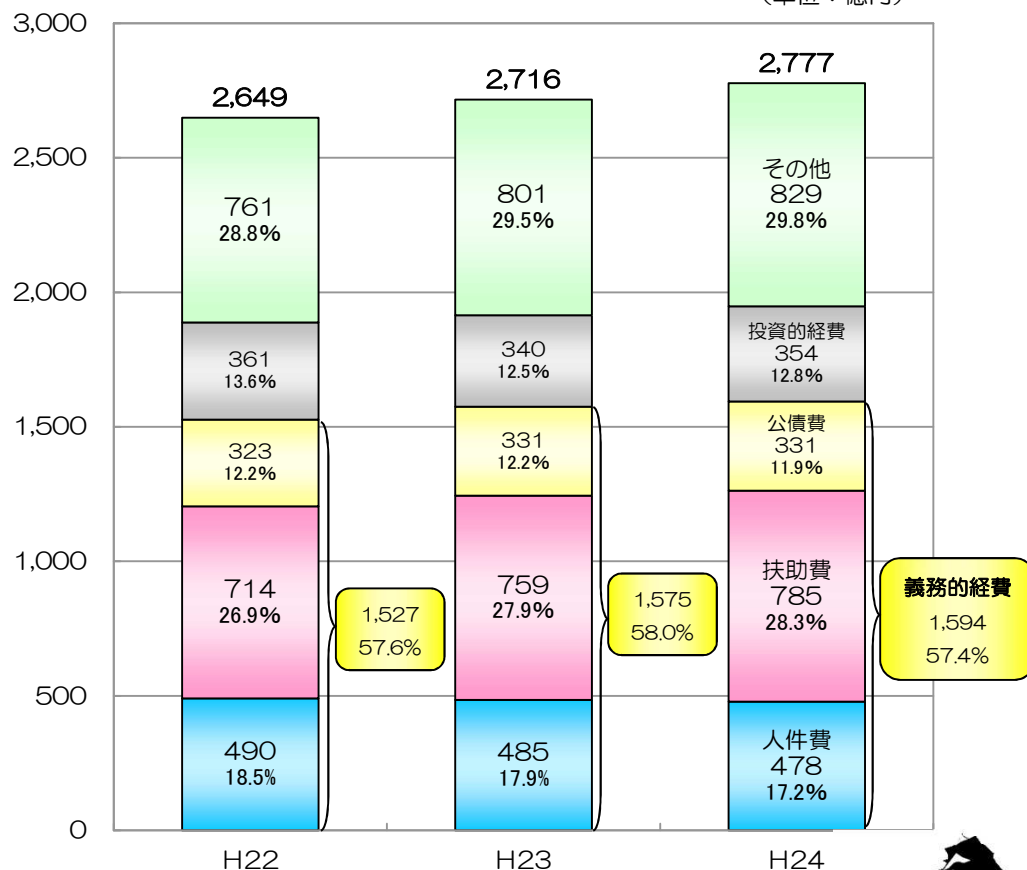
- ◆ 平成24年度歳出決算総額は2,777億円で、前年度比2.2%、61億円の増
- ◆ 義務的経費の決算は1,594億円で、前年度比1.2%、19億円の増、全体に占める割合は57.4%

平成24年度 普通会計決算(歳出)

(単位：億円)

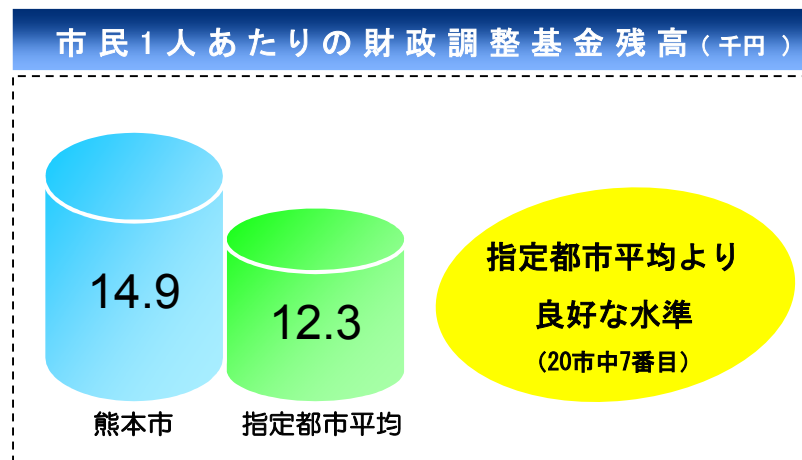
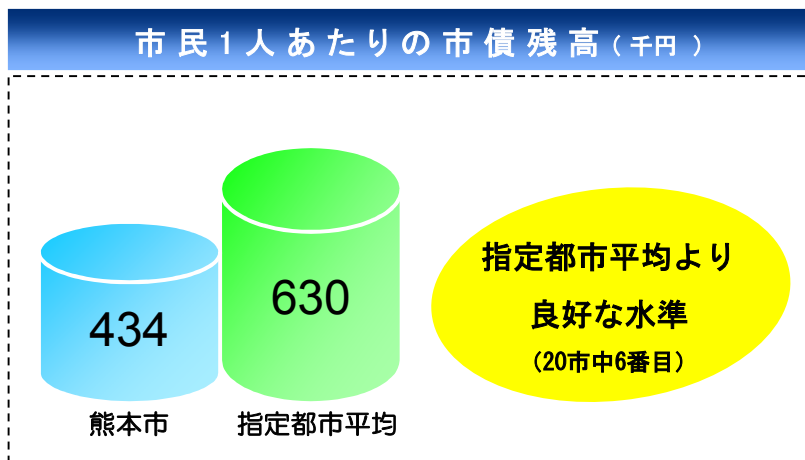
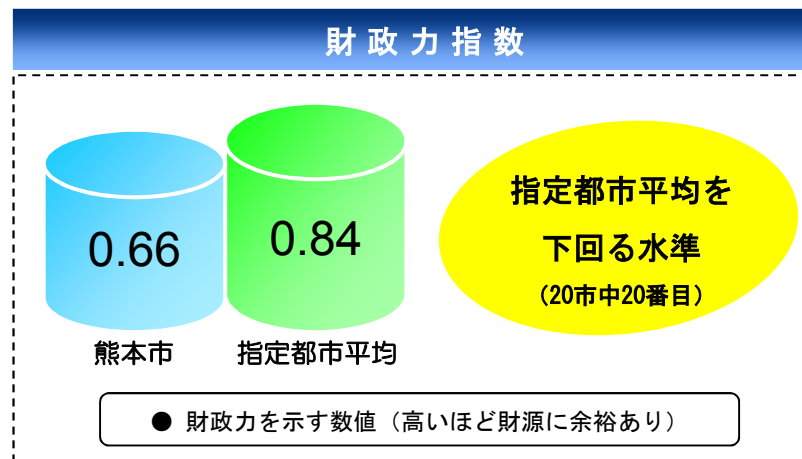
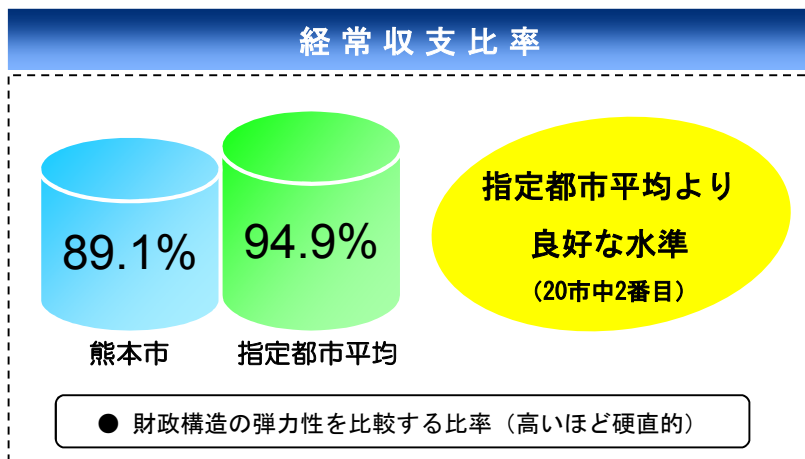


(単位：億円)



Ⅲ. 熊本市の財政状況

■ 主な財政指標の状況 (平成24年度決算)



Ⅲ. 熊本市の財政状況

■ 健全化判断比率の状況

- ◆ 早期健全化基準に該当する指標はなく、健全な財政状況
- ◆ 指定都市との比較においても、良好な水準

健全化判断比率の推移

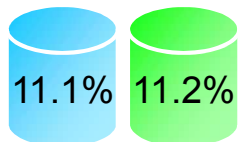
	H21	H22	H23	H24	早期健全化基準
実質赤字比率	—	—	—	—	11.25%
連結実質赤字比率	—	—	—	—	16.25%
実質公債費比率	13.0%	12.2%	11.8%	11.1%	25%
将来負担比率	140.5%	135.7%	125.3%	120.7%	400%

改善

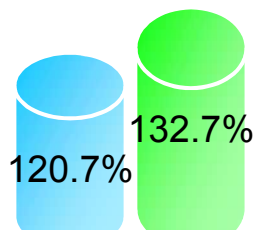
健全化判断比率の指定都市比較（H24決算）

●実質公債費比率

●将来負担比率



熊本市 指定都市平均

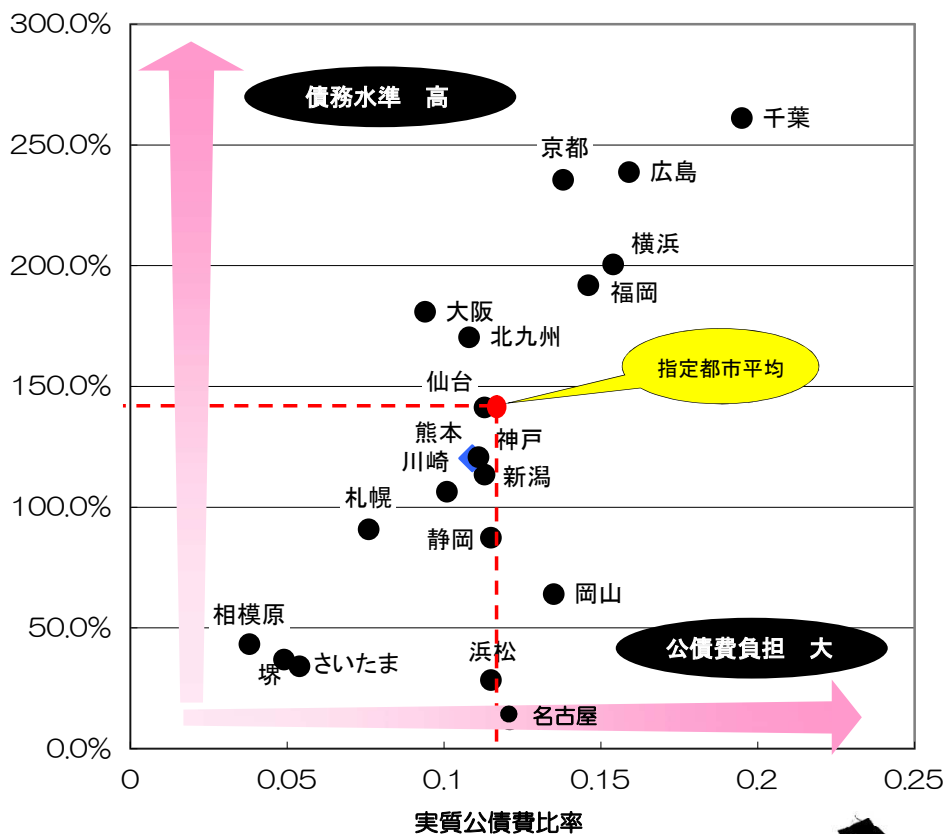


熊本市 指定都市平均

指定都市平均
より良好な水準

(20市中、実質公債費比率9番目
将来負担比率11番目)

将来負担比率



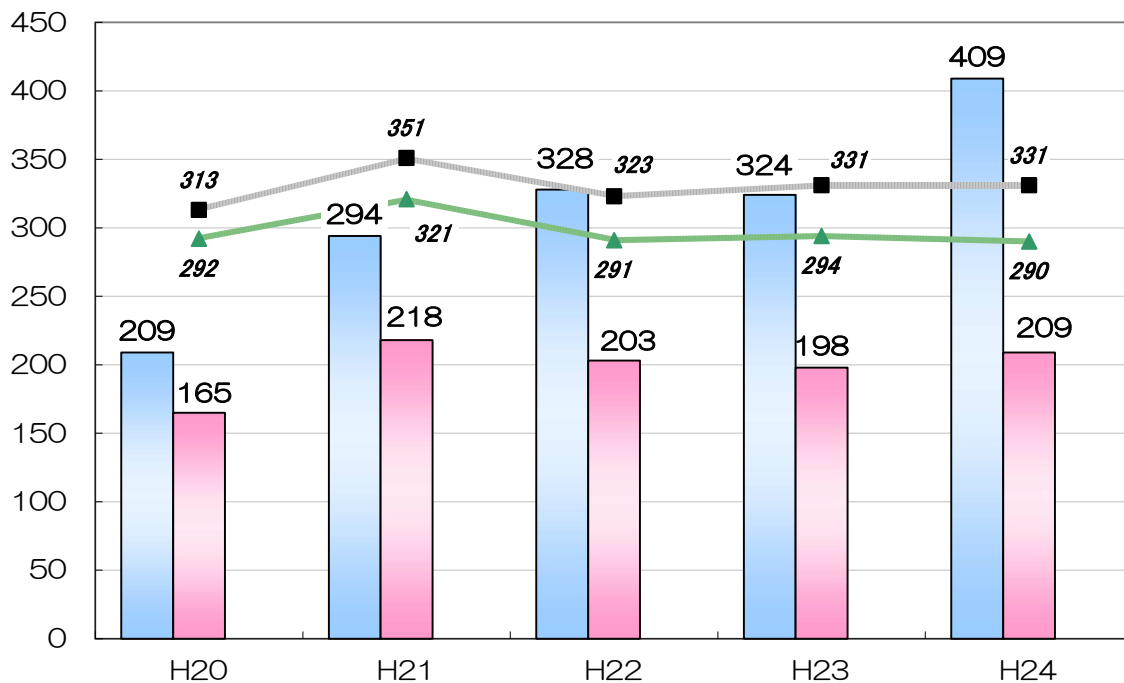
Ⅲ. 熊本市の財政状況

■ 市債発行額・公債費の状況(普通会計)

- ◆ 平成24年度は指定都市移行等の影響により、市債発行額は、前年度比26.2%、85億円の増
(臨時財政対策債を除いた市債発行額は、前年度比5.6%、11億円の増)
- ◆ 公債費は臨時財政対策債を除いた発行額を下回ることなく推移

市債発行額及び公債費の推移

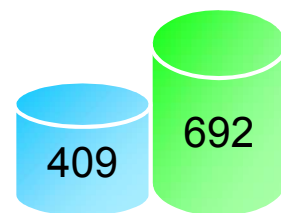
(単位：億円)



市債発行額 市債発行額(臨時債除く) 公債費 公債費(臨時債除く)

市債発行額(H24決算)

(単位：億円)

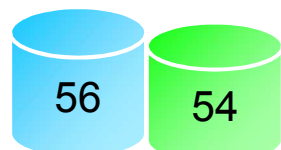


熊本市 指定都市平均

指定都市平均より
良好な水準
(20市中5番目)

市民1人あたりの市債発行額(H24決算)

(単位：千円)



熊本市 指定都市平均

指定都市平均を
やや上回る水準
(20市中12番目)

臨時財政対策債とは、本来、地方交付税として交付する一部を地方自治法第5条の特例として発行されるもの。なお、その元利償還金については、翌年度以降の基準財政需要額に全額算入する

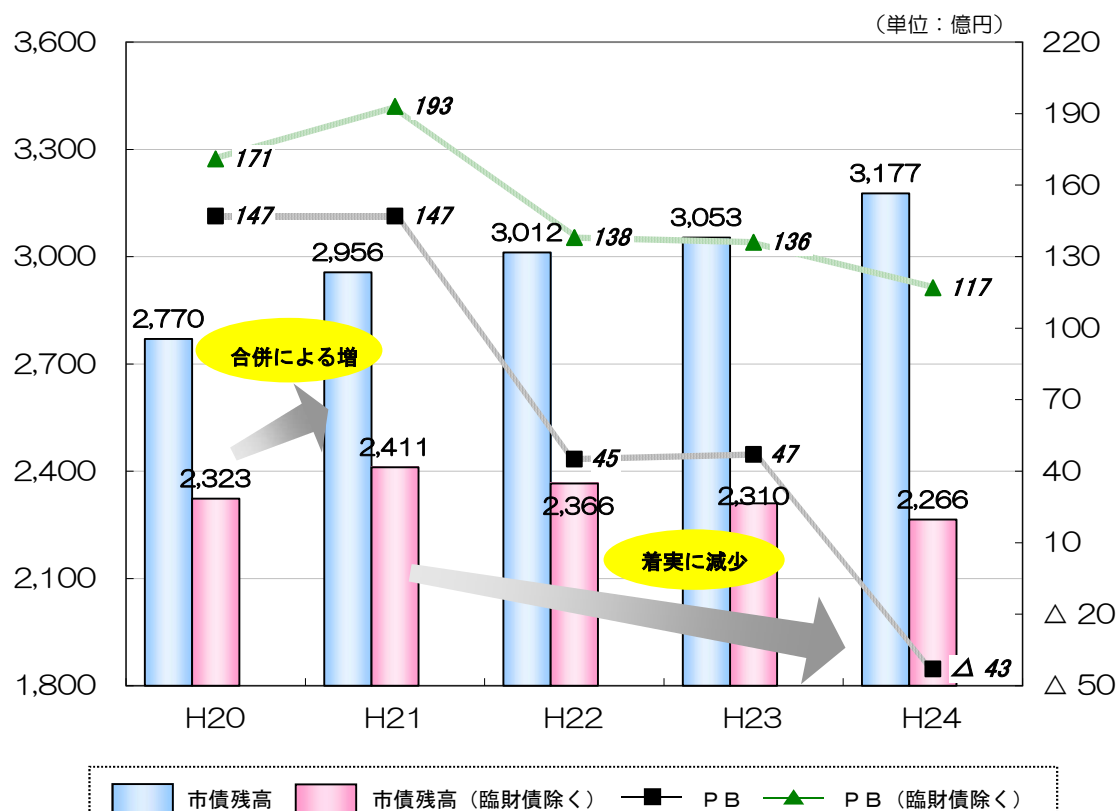


Ⅲ. 熊本市の財政状況

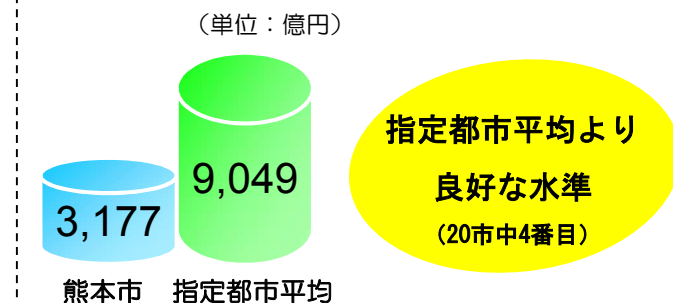
■ 市債残高・プライマリーバランスの状況（普通会計）

- ◆ 市債残高は、臨時財政対策債を除くと、着実に減少（平成21年度は合併影響により増加）
- ◆ プライマリーバランス（臨時財政対策債除く）についても、15年連続で黒字を継続
- ◆ 指定都市と比較においても良好な水準

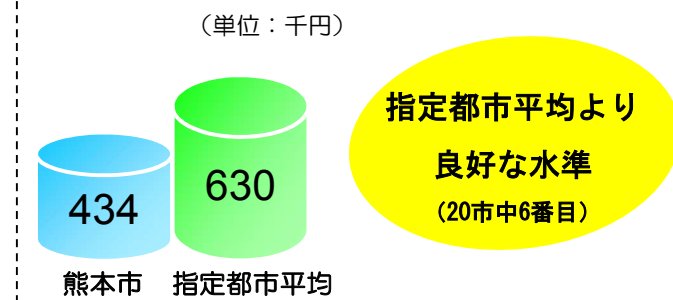
市債残高及びプライマリーバランスの推移



市債残高（H24決算）



市民1人あたりの市債残高（H24決算）



プライマリーバランス（PB）は、市債を除いた歳入と公債費を除いた歳出との差引額（歳入総額 - 市債） - （歳出総額 - 公債費）



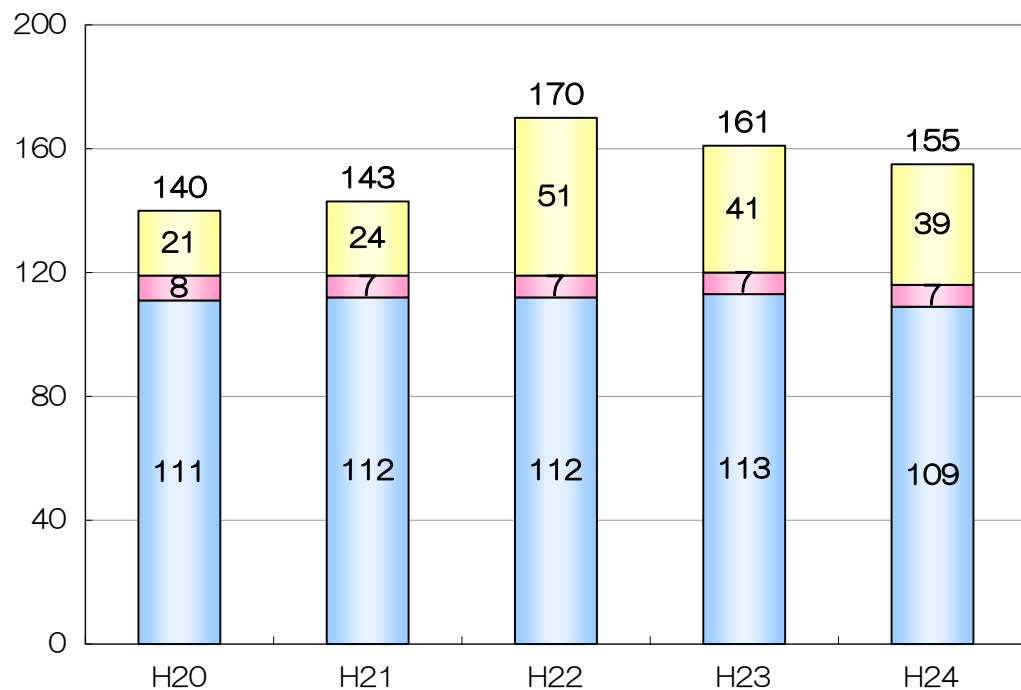
Ⅲ. 熊本市の財政状況

■ 基金の状況

- ◆ 財政調整基金残高は、継続して100億円台を維持
- ◆ 市民1人あたりの財政調整基金残高は、指定都市の中で上位に位置

各基金の年度末残高の推移（普通会計）

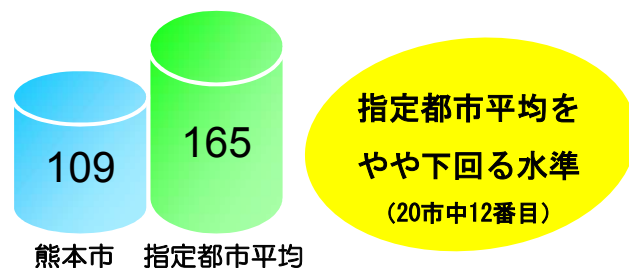
（単位：億円）



財政調整基金 減債基金 其他特定目的基金

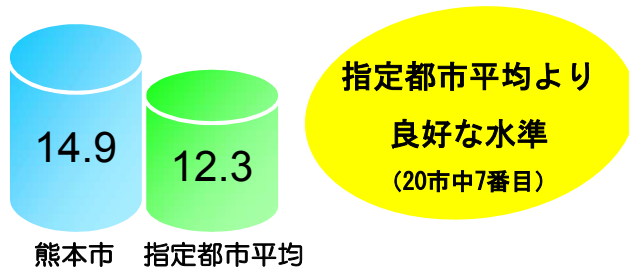
財政調整基金残高（H24決算）

（単位：億円）



市民1人あたりの財政調整基金残高（H24決算）

（単位：千円）



Ⅲ. 熊本市の財政状況

■ 特別会計の状況（平成24年度決算）

- ◆ 国民健康保険会計の累積赤字は22億円となり、前年度から31億円の収支改善
- ◆ 健全化計画の取組みにより、更なる累積赤字の解消を目指す

（単位：億円）

会計名	歳入 (A)	歳出 (B)	形式収支 (A) - (B) = (C)	翌年度へ繰越 すべき財源 (D)	実質収支 (C) - (D)	備考
国民健康保険会計	834	856	▲ 22	0	▲ 22	健全化計画実施
介護保険会計	499	483	16	0	16	10億円を超える黒字
競輪事業会計	121	116	5	0	5	一般会計へ2億円繰出
その他の会計	485	480	5	1	4	その他13会計（赤字なし）
合 計	1,939	1,935	4	1	3	

国民健康保険会計健全化計画の取組み

（単位：億円）

【目標】 H26までに累積赤字を10億円に圧縮

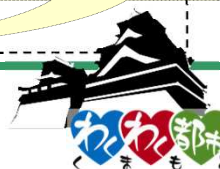
【計画期間】 平成17～26年度

【具体的な実施項目】

- 医療費適正化
- 保険料の改定
- 収納率の向上
- 一般会計からの支援

	実績（決算）					計画	
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
歳入	665	741	776	812	834	852	881
歳出（繰上充用除く）	666	743	767	792	803	841	866
単年度収支	▲ 1	▲ 2	9	20	31	11	15
累積収支	▲ 80	▲ 82	▲ 73	▲ 53	▲ 22	▲ 11	4
保険料収納率	85.3%	85.8%	87.1%	87.0%	87.1%	88.5%	89.0%

累積赤字を圧縮



Ⅲ. 熊本市の財政状況

■ 公営企業会計の状況（平成24年度決算）

- ◆ 全会計において、収益的収支は黒字
- ◆ 交通事業会計は、経営健全化計画の取組みにより、資金不足の解消に努める

（単位：億円）

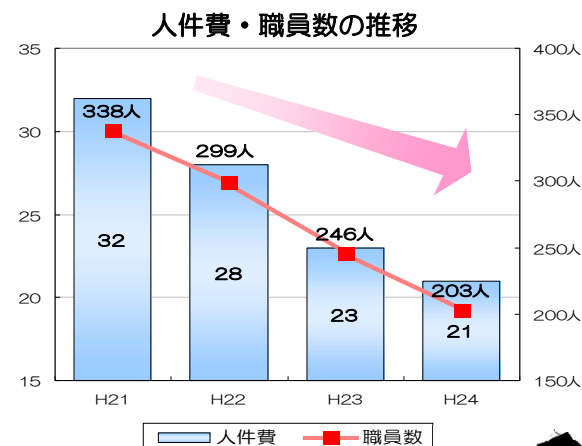
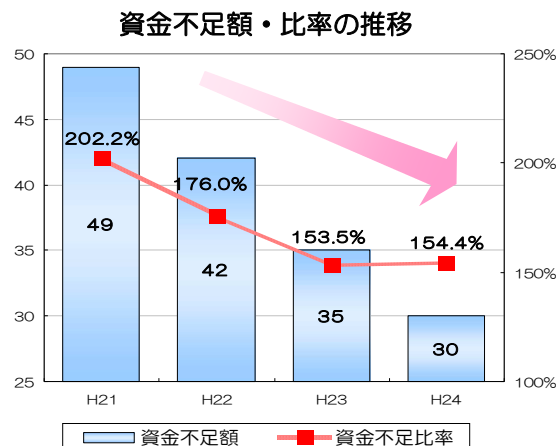
会計名	平成24年度決算（収益的収支）			資金剰余（不足）額				資金不足比率			
	総収益	総費用	純利益								
				H21	H22	H23	H24	H21	H22	H23	H24
病院事業	147	141	6	10	10	9	14	—	—	—	—
水道事業	127	106	21	75	99	110	111	—	—	—	—
下水道事業	162	150	12	73	75	91	90	—	—	—	—
交通事業	35	29	6	▲ 49	▲ 42	▲ 35	▲ 30	202.1%	176.0%	153.5%	154.4%
合 計	471	426	45	109	142	175	185				

交通事業会計の経営健全化計画の取組み

【計画期間】平成21～27年度

【具体的な実施項目】

- バス事業全面廃止（民間移譲）
- 職員数の削減（238人削減）
（H21 338人 → H28 100人体制）
- 職員給与の削減（5%カット）
- 資産の有効活用（用地売却等）



Ⅲ. 熊本市の財政状況

■ 外郭団体の状況（平成24年度決算）

- ◆ 土地開発公社の解散（平成16年度）により、地方三公社は「なし」
- ◆ 長期借入金及び債務保証等に係る債務残高は「なし」

外郭団体（出資比率50%以上）の決算状況（平成24年度）

（単位：百万円）

団体名	種別	基本財産 （資本金）	本市 出資額	本市 出資割合	H24年度 経常損益	正味財産	長期借入金	債務保証等に係 る債務残高
熊本市美術文化振興財団	公益財団法人	100	100	100%	17	226	0	0
くまもと地下水財団	公益財団法人	50	50	100%	7	424	0	0
熊本市学校給食会	公益財団法人	100	100	100%	△ 1	102	0	0
熊本市水道サービス公社	公益財団法人	30	30	100%	3	99	0	0
熊本市下水道技術センター	公益財団法人	50	50	100%	7	77	0	0
熊本市駐車場公社	一般財団法人	50	50	100%	3	122	0	0
熊本市国際交流振興事業団	一般財団法人	180	180	100%	3	218	0	0
熊本市勤労者福祉センター	一般財団法人	32	32	100%	△ 2	132	0	0
熊本市社会福祉事業団	社会福祉法人	3	3	100%	95	968	0	0

外郭団体経営改革計画の取組み

【計画期間】 平成16～25年度

【具体的な実施項目】

- 熊本市土地開発公社等4団体の解散
- 市の関与の見直し
（補助金削減・派遣職員の引き上げ）
- 公益法人への移行

主な取組み

- ・ 熊本市土地開発公社の解散（平成16年度）
- ・ （株）サンシティの解散（平成16年度）
- ・ 福祉公社の解散（平成17年度）
- ・ （財）熊本市住宅協会の解散（平成23年度）
- ・ 職員の派遣を26名減（引き上げ）（平成18年度より実施中）



Ⅲ. 熊本市の財政状況

■ 財政の中期見通し

- ◆ 計画的な財政運営により、収支は安定的に推移していく見通し
- ◆ 各財政指標は、国県道整備事業等の実施により、上昇傾向となる見通し（実質公債費比率を除く）

（単位：億円、％）

歳入	H25	H26	伸率	H27	伸率	H28	伸率	H29	伸率
市税	952	960	0.9	951	▲ 0.9	957	0.7	964	0.7
実質的な地方交付税	578	603	4.3	609	0.9	615	1.0	620	0.9
国県支出金	666	671	0.9	721	7.4	697	▲ 3.4	719	3.2
市債（臨財債除く）	265	256	▲ 3.4	352	37.7	267	▲ 24.2	258	▲ 3.4
その他収入	393	334	▲ 15.3	345	3.6	331	▲ 4.1	332	0.1
合 計 A	2,854	2,824	▲ 1.1	2,978	5.5	2,867	▲ 3.7	2,893	0.9
歳出	H25	H26	伸率	H27	伸率	H28	伸率	H29	伸率
義務的経費	1,580	1,595	1.0	1,620	1.6	1,650	1.8	1,685	2.1
人件費	465	463	▲ 0.5	469	1.3	465	▲ 0.9	464	▲ 0.3
扶助費	790	806	2.1	823	2.1	842	2.3	861	2.3
公債費	325	326	0.3	328	0.6	343	4.5	360	4.9
投資的経費	456	437	▲ 4.1	586	34.1	442	▲ 24.5	450	1.8
その他経費	817	778	▲ 4.8	770	▲ 1.0	770	0.0	762	▲ 0.9
合 計 B	2,853	2,810	▲ 1.5	2,976	5.9	2,862	▲ 3.8	2,897	1.3
収 支 A－B	1	14		2		5		▲ 4	

実質公債費比率	11.0%	10.4%	9.9%	9.6%	9.6%
将来負担比率	131.8%	130.3%	142.3%	145.5%	148.2%
経常収支比率	89.9%	87.7%	88.1%	88.6%	89.0%
市債残高（臨財債除く）	2,277	2,308	2,440	2,486	2,562

【試算の前提条件】

〔歳入〕

- ・市税は、確定している税制改正の影響を反映（政府が示す経済成長率等は考慮しない）
- ・実質的な地方交付税とは、地方交付税及び臨時財政対策債（地方交付税振替分）の合計
- ・期間中の財政調整基金の取り崩しはなし

〔歳出〕

- ・人件費は、中期定員管理計画に基づく職員数を考慮し、退職手当の所要額を確保
- ・扶助費は、生活保護費、保育所運営費等項目別に過去の実績等を勘案
- ・公債費は、既借入分は償還計画により、新規発行分は理論計算により推計

財政の中期見通しは、毎年度、当初予算を踏まえ見直しを実施



Ⅲ. 全国型市場公募地方債の発行の取組み

■ 平成25年度起債計画

- ◆ 指定都市移行により、市債発行額及び民間資金の割合が大幅に増加
- ◆ 市場公募債の発行により、多様化及び自立的・安定的な資金調達に取組む

平成25年度第1回公募公債の概要

【発行額】	100億円
【償還期間】	10年満期一括償還
【条件決定日】	平成25年11月12日（火）
【発行日】	平成25年11月29日（金）
【募集期間】	11月12日（火）～ 11月22日（金）

（参考）平成24年度市場公募債発行実績

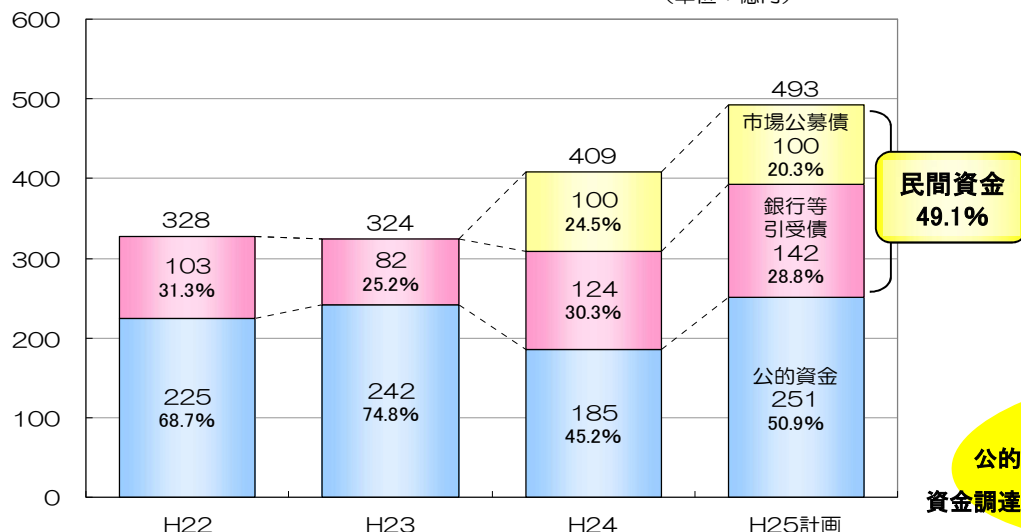
【発行額】	100億円
【償還期間】	10年満期一括償還
【発行日】	平成24年11月30日（金）
【募集期間】	平成24年11月7日（水） ～11月20日（火）
【発行価格】	100円00銭
【利率】	0.796%

＜平成25年度熊本市市場公募地方債 引受シンジケート団＞

銀行団	肥後銀行
	みずほ銀行
	熊本銀行
	熊本第一信用金庫
	あおぞら銀行
	熊本信用金庫
	熊本中央信用金庫
	新生銀行
	三井住友銀行
	三菱東京UFJ銀行
証券団	みずほ証券
	SMBC日興証券
	大和証券
	野村証券
	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
	岡三証券
	東海東京証券
	SMBCフレンド証券
	しんきん証券
	パークレイズ証券

＜市債発行額の借入区分別の構成比（普通会計）＞

（単位：億円）



市場公募債発行を機に、
公的資金から民間資金へシフトすることで、
資金調達の多様化を図り、財政運営の自立性を高める



【お問い合わせ先】

熊本市財政局財政課



ひごまる

〒860-8601

熊本市中央区手取本町1番1号

電話： 096-328-2085

FAX： 096-324-1713

E-mail: zaisei@city.kumamoto.lg.jp

<熊本市ホームページ> <http://www.city.kumamoto.kumamoto.jp>

[トップ](#)  [行政情報](#)  [財政・行政改革・情報公開・監査](#)  [熊本市の財政情報](#)

